

## 事例紹介

### 山形県鮭川村立 鮭川小学校



## 習ってすぐにドリルで、しっかり定着！

### ～ PC教室への移動から生まれる、楽しさと気づき～

鮭川小学校では、先生方の一工夫でICTを授業に効果的に取り入れています。タブレット機器への注目が集まる今だからこそ見直したい、PC教室での学習の有効性を感じる実践です。

### 授業

授業後半は、PC教室でドリルタイム！

大江秀樹先生の5年生算数の授業では、授業の後半に効果的にドリル学習を取り入れています。

### ● 習った内容は、すぐにドリルで確認

5年生算数の「偶数と奇数、公倍数と公約数」の授業では、普通教室で公倍数の求め方を確認した後、PC教室に移動してドリルに取り組みました。

今日のドリル学習のめあては、「繰り返したくさんの問題に取り組んで、正確にスピーディーに公約数・公倍数を求められるようになろう」。限られた時間で少しでも多くの問題を解こうと、児童は皆移動も起動も集中して手早く行っていました。

鮭川小学校では、このように授業の後半だけPC教室に移動してドリルを行う取り組みがしばしば行われています。そこには、「習った内容をすぐに違う形で問われることで、定着を図りたい」という先生方のねらいと工夫があります。



では、ここからはPC教室に移動してドリルをしましょう

教室移動



▲時間のロスが発生すると思われるがちな教室移動も、意欲づけにより短時間でスムーズに行えています



▲なぜどう間違えたのかを家でも振り返ることができるよう、ノートとの併用を薦めています

### ● その一工夫が、学習効果を高める！

ドリルタイムが進むにつれ、間違えた問題の問題文と解答解説を算数のノートに自主的に書き写す児童の姿が増えていきました。また、ノートに考えを書きながら答えを導き出す児童もあり、日頃のノート指導が学習効果を一層高めている様子が窺えます。

また、理科の授業では、間違えた問題の解答解説をその場で印刷してノートに貼る指導も行っているそうです。

## 学ぶ気持ちを育む、自由学習タイム

先生から指定された単元の学習を終え、クラス全員でふりかえりを行った後は、待望の**自由学習タイム**です。この10分間は、好きな学年や教科のドリルに各自で取り組みます。

「次はどこをやろう?」「先生見て! 100点取れたよ」と児童は皆生き生きと学習を楽しんでいます。**自分で学びたいという気持ちを育てるため、大江先生はこの自由学習の時間をとても大切にしているそうです。**



▲クラス全体への呼びかけと個別の励ましをこまめに使い分けて指導しています

### 視聴覚担当 大江 秀樹 先生のお話

算数・理科・社会の復習の場面でeライブラリのドリルを活用しています。一斉授業だけでは分からなくて暗い表情をしがちな児童も、このドリルだと**「楽しい!」**の言葉が出る。それが教員としてとても嬉しいです。限られた授業時間の中で少しでもそうした機会を増やせるよう、今回のように授業の最後だけPC教室に移動して、こまめにドリルを行っています。

また、学習にかかった時間も記録に残るため、目標時間を決めて繰り返し取り組ませることで、**スピードアップにも繋がりたい**と考えています。



▲「時間が記録に残って楽しい」といった感想も

## 自分の力を知る機会として

授業最後のふりかえりの時間には、児童が学習の感想を発表しました。そこでは、今回のドリル学習を通して、**自分の得意や苦手を知ったり、次の目標を立てたりと、新しいステップに繋がる気づき**が生まれていました。

- ・問題がいろいろ出てきて、自分の実力がわかった
- ・間違えた問題も、解説を見て分かることが楽しかった
- ・やり直せたのでうれしかった

## 児童には学習の楽しさを、先生には個別指導の時間を

～長南 完治 校長先生、今田 均 教頭先生のお話より～



長南 完治 校長先生

今田 均 教頭先生

eライブラリのドリルは画面や音の切り替わりが児童に嬉しく、問題が次々に出題されることを楽しく感じられる点が魅力だと感じています。中には難しい問題もあるため、教科書の問題に物足りなさを感じる児童をさらに伸ばすこともできます。

また、先生にとっては**個別フォローが必要な児童への指導時間が確保できる**ため、時間を絞って効果的に取り入れるよう先生方に呼びかけています。